

## S07b セイファート銀河NGC 4151の多色測光

本田 敏志、定金 晃三 (大阪教育大)

NGC 4151は活動銀河(セイファートタイプ1)の雛形で、同種のものに比べ明るく北天に位置しているため、観測可能な時期が長く、古くから研究されており中心核が激しく活動して変光することが知られている。

1995年3月にe-mailでNGC 4151が明るくなったとの報告を受けて、どれくらいの期間で、どれくらい変光するのか、色の变化はあるのか等を調べるために大阪教育大学の51cm望遠鏡と窒素冷却式CCDカメラを用いて1995年3月6日から1996年7月16日まで、B(440nm)、V(520nm)、R(610nm)、I(780nm)の各波長域で48夜観測を行った。

解析にはIRAFのapphotというタスクを用いた。

その結果、数回の増光と減光が観測され、特に1995年の11月頃には約40日ほどの間に約0.4等(Vband)の急激な減光とその後の増光が観測された。その時、暗くなったときには明るいときと比べて色指数は赤くなっていた。

1996年に入ってから明るい状態が続いている。

これらのことは、中心核領域のサイズや物理状態に制限を加えるために役立つ。

この約1年間のモニターでの変光や、色の違いなどについて考察したい。